

【説明資料(提出ファイル)】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDFに変換した後, web 提出フォームにて提出する。

個人・グループ名	兼子香月	大学名	宮城教育大学
作品名	あなたの SNS の使い方大丈夫？危険度診断教材	人数	1名

1. 製作の動機・目的

近年の SNS に関連するトラブルは, 教師や親としてもネット上の閉ざされたコミュニティに介入することも難しく, 学校現場での情報モラル教育の実態として, 全体への啓発集会や授業, またトラブルが起きたあとの指導が主となっている。そこで大切なのは, やはり生徒自身が自分の特性を理解して, 一歩踏みとどまって考えることではないだろうか。そこで自分の性格傾向と行動特性からどのような SNS トラブルに遭いやすい傾向をもっているのかをセルフチェックできるチェックツールを開発した。

表 1 診断されるトラブルとその概要

トラブルの種類	概要
SNS 発信依存	常に他者からのリアクションが気になる状態
SNS 受信依存	自分に向けられるメッセージが常に気になる状態
行き違い	文字でのコミュニケーションによる誤解や誤認から起こるトラブル
いじめ	現実でのいじめの延長として SNS が利用され被害が拡大するトラブル
リテラシー不足	ネットの知識不足していることが原因で起きるトラブル
炎上	他者からのリアクションが欲しという過剰な欲求が原因で起きるトラブル
個人情報漏洩	自らの情報を自分で誤って発言してしまう, もしくは他者が発言したことにより被害を受けるトラブル
個人情報漏洩	他者を陥れる意図のあるなしに関わらず, 自身が発言した情報によって他者が被害を受けるトラブル

2. システムの概要と利用方法

本チェックツールは, 5つの心理尺度を基とした 27 問の質問項目 (図 1) に回答することで, 自分の性格傾向がわかり, それに伴って最も遭いやすいネットトラブルを診断するものである。表 1 は今回診断される 8 つのトラブル分類とその概要である。診断結果には, 一番遭いやすいトラブル・具体的なトラブル事例・トラブルが起きやすい場面が表示される。ページ下部には各自治体等が公開している安全なスマートフォン利用のための啓発動画も埋め込み, 自分の特性と関係の深い具体的な行動指標が理解できるようになっている。また, 他のトラブルについてもどの程度遭遇しやすいのか, 割合を棒グラフで表示し, 注意喚起するようにしている(図 2)。この教材の活用場面は, 情報モラルの授業や講演等を想定している。目的に応じて匿名でも記名でも診断することができ, 利用者は自分の結果のみ把握できるが, 管理者モードでアクセスすれば入力されたデータが取得可能である。情報モラルの話の前に診断すれば, ネットトラブルに対する当事者意識を高めることができ, 診断結果をもとにして, そうしたトラブルにあわないようにするための自分に適したスマホのルールを作成するといった授業展開が考えられる。例えば, 診断結果に応じて, 「受信依存傾向が心配」と診断された場合, 自分が SNS を長時間見てしまうことに対して, 使用時間を見直すことや, 生活スタイルそのものを見直せないか考える切り口とすることができる。

図 1 診断入力画面 (一部)

診断結果

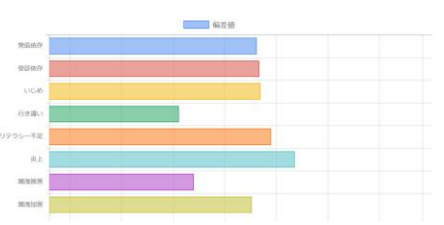


図 2 診断結果画面 (一部)

3. 工夫した点

小学校低学年の児童でも直感的にトラブルの内容がわかるように, 文字での説明だけでなく, イラストも加えた。また, 一番遭いやすいトラブルを表示するだけでなく, 他のトラブルはどれくらい遭いやすいのかを示すグラフも表示することとした。診断結果で表示される一番遭いやすいトラブル以外の詳細は, 次の画面に移った際にそれぞれ個別に見ることができるようにした。また, トラブルの具体事例はできるだけ身近な問題を取り扱うものとした。診断前に自分の学年(小学生以下・中高生・大学生以上)と SNS を使用しているかを回答することによって, 発達段階と SNS の使用度に合った診断結果が表示されるようにしている。

http://anlab.miyakyo-u.ac.jp/m_check/